



## ジンバブエ共和国

ナショナル・デー  
2005年日本国際博覧会  
2005年4月18日

### ジンバブエの旅

このダンス・ドラマは、1980年から2005年にわたる独立後の四半世紀に焦点をあてた、ジンバブエの1890年から今日に至る社会、文化そして政治の万華鏡です

脚本監督： リファティ・ハリメディ  
助手： ティモシー・ムララジとイレーネ・チガンバ

## SCENE 1. Beautiful Zimbabwe:美しいジンバブエ

照明オフ。歌とサイド・ライトで映し出される舞台後方のダンサーのシルエットでシーン1が始まる。「クエンダ・ムビレ」の歌が舞台裏から流れ、ナレーションが歌にかぶる。大ジンバブエ遺跡のセット。

### ナレーション

*自然の叡智の物語。マジンバブエ、石の家、と呼ばれる南半球の土地に住む、アフリカの人々の物語。大ジンバブエ遺跡を造った人。“ムシオワ・ツニャ”、轟く水煙の名を持つビクトリア瀑布の監視人。沢山の動植物が住み、その下に豊かな鉱脈を抱える広大な森の監視人。*

## SCENE 2. The Spiritual Cave :霊的な洞窟

シーンはドラムの重い音および夜の奇怪な音と共に変わる。霊的な洞窟になる。セットは“アンブヨ・ネハンダ”、“セクル・カグヴィ”、そして“セクル・ロベンゲーラ”の静止画になる。そのシーンは、抽象的に、3人の霊媒師の祈禱による霊的なトランス状態を描写している。それは、霊的な儀式におけるムビラ音楽、ドラムそしてダンスの結びつきを表している。そのシーンは、ジンバブエの心と魂が発する洞窟を提示している。

## Scene 3. The Pride of Madzimbahwe:マジンバブエの誇り

### ナレーション

*ジンバブエの誇り、それはドラムの音から発せられる共鳴と振動。“ムビラ”および“ホーショー”とともに、ドラムは霊的に交信し、このアフリカの家族を結び続ける。“チーフ”とは、伝統を護る責務を担う人。*

ナレーションのすぐ後にドラムが鳴る。照明効果による神秘的なムードが未だ漂っている。シーンは「ムチョンゴヨ・ダンス」、「マンガインギンド・ダンス」、そして「カテクウェ・ダンス」のコーラージュ。ドラム続く。これはジンバブエの様々な伝統の比喻である。誇りと伝統的な価値、文化と伝統的なリーダーシップを意味する。

## SCENE 4. The Original Township: 元来の“タウンシップ”

### ナレーション

*農場、鉱山などにおける過酷で奴隷扱いの歴史とそれに素をなす早期の反乱を通じ、われわれは新しい文化の秩序に傾倒した。植民支配による“タウンシップ”の到来、1940年代はエンターテインメントの新しい局面の全盛期であった。教会礼拝、ティー・パーティーおよび結婚式は一般的な行事であった。われわれはペン・ウィスル、ダブル・バス、サクソホーン、バンジューそしてピアノに合わせて踊った。*

教会の鐘が鳴りダンサーが結婚式のために教会の中に入っていく。

## SCENE 5. The School Bell Rings: 学校のベルが鳴る

教師が来る前、いたずら好きな子供たちが教室で騒いでいる。仲間はずれにされた一人の少女が怒ってこの騒ぎを見てもらうために教師を呼びに行くことにする。

教師： これは一体何事ですか？起立。着席。（おしおきとして何回か繰り返される）ティー・パーティー自由運動をわたしのクラスでやるのは止めなさい。歴史の本の 1,890 ページを開けなさい。

### 歌

#### 「ヴァカウヤ・ヴァチェナ」

歌の最中、鉱山、農場、工場で低賃金労働を強いられていたジンバブエ労働者の静止画像。

戦車や砲車のモーションピクチャーの空バック。重々しいマシンガンの銃声がし、子供が逃げ出す。

## SCENE 6. The Birth of Zimbabwe:ジンバブエの誕生

照明および歌と同時に、グラフィックスにアフリカとジンバブエの地図が代わる代わる映し出される。

### ナレーション

*しかしその後、過酷な労役と奴隷制度は終わりを知らねばならなかった。自然の叡智は正規のコースを辿らねばならなかった。1980年に、先住社会への変換に歩みだすべく、ジンバブエは誕生した。審判は下された。*

ボブ・マーリーの歌「ジンバブエ」がソロ・シンガーによって歌われ、キャストが後に続いて歌う。

キャスト： ジンバブエ

このシーンの照明はコンサートの時のような点滅で行う。黄色、赤、緑の点滅照明が好ましい。

## SCENE 7. Ishe Komborerai Africa:「イシェ・コンボレラ・アフリカ」

失った誇りを取り戻すなかで、アフリカ人にとって、ジンバブエ人にとっては特に、これはひとつの勝利であった。歌の2番は、アフリカの人々に世界中の黒人を尊敬しそのイメージを高揚することを訴えている。

このシーンの照明はコンサートの時のような点滅で行う。黄色、赤、緑の点滅照明が好ましい。

## SCENE 8. Unity Song:団結の歌

シーンは舞台から始まる。ジンバブエの平和、静寂と発展を奨励する歌。コーラスが後で歌っている最中、二人のダンサーがサッカーのゲームの真似をしている。歌の終わり近く、歌い手はジンバブエで行われているそれぞれ違ったスポーツ競技に分かれて散り、ダンサー二人を残して消える。残された二人はやがて団結の証に握手をかわし、一人がもう一人を舞台に残したまま消える。

## SCENE 9. African Religion: アフリカの宗教

ジンバブエ国民はキリスト教や伝統宗教を含む様々な宗教を信仰している。このシーンは“使徒信仰”を描くもので、この信仰者は、聖霊のもと聖水を用い、全ての悪しき要素を取り除く力を持っている。

ダンサーが詩を朗読する。詩の後に歌「チツンガミリレイ」が来る。

詩

傷を癒せ  
土地を清めよ  
あたり一面にそれらをもたらせ  
汝の中にわれらは母なるアフリカを見る  
永遠なる真実  
われらが信じ従う創造者

ダンサーが靴を脱いで洗礼の祈りのための態勢を整えながら舞台に登場する。ダンサーは「チツンガミリレイ・エホバ」を歌う。礼拝が始まり、一人のダンサーが洗礼の集団に加わる。これは国の浄化を意味し、われわれの国の宗教的な要素を表している。祝いの踊りとともに、歌「ジョブ・ムランダ」が洗礼を終結する。

## SCENE 10. The wheels of industry: 産業の輪

孫娘がイスラエル以外のユダヤ人居住地から遣って来る。祖父が新しく手に入れた畑を耕しているのを見つける。祖父の姿を見て喜ぶ。祖父が孫に孫の留守中に起きた進展を見せ、孫は驚きを歌にする。工場や一般的な産業を言及するために、ゴム長靴・ダンスが同時に演じられる。

セットで国の異なった産業活動を示す。

## **SCENE 11. Bonus:ボーナス**

昔からジンバブエのボーナス時は年の終わりであった。労働者はこのとき 13 枚目の小切手を手にし、一年間の労をねぎらう。

このシーンは、いささか浮かれて気が大きくなった若い男がボーナスを友達と一晩で使い果たす場面からなる。

このセクションは、現地のダンスホールの様子を伝える今日の「ボロウデール・ダンス」を示すものである。「ボロウデール・ダンス」は人気のあるジンバブエの現代ダンスでギャロップする馬のリズムを表している。この名前は有名なボロウデール競馬場に由来している。

## **SCENE 12. Tane Minda:「タネ・ミンダ」**

このシーンは、今は広く第三次“チムレンガ”（第一次・第二次“チムレンガ”は 1890 年の黒人による反乱と、独立（1980 年）に導いたその後の解放闘争を言及している。）として知られる農業改革計画を祝う場面で構成されている。

吊り下げ式セットは感慨と他の農耕設備を整えた農地。ダンサーは収穫の「ディンヘ・ダンス」を踊る。歌「タネ・ミンダ」でシーンは始まる。

## **Scene 13. Zimbabwe National Anthem:ジンバブエの国家**

アップビートの国家がコーラスとリード・ソロ歌手によって歌われる。吊り下げ式セットでこのダンス・ドラマの写真を最初のシーンから表示する。

終わり